

## パキスタン帰国研修員からの便り ～野菜播種機の普及を目指して～

### 手作業で行われている野菜の播種(種まき)とその課題

パキスタンでは豆類、オクラ、ダイコン等の様々な野菜の栽培が盛んです。しかしながら、同国の小規模農家は手作業のみで播種(種まき)をしています。このため、時間を要して適時に播種ができない、播種をする労働者の負担が大きい、労働者雇用のための人件費等の経済的負担が大きい等の課題を抱えています。さらに、近年は播種を行う労働者不足も課題の一つとなっています。



手作業で行われている野菜の播種作業風景

輸入播種機もありますが、大型で高価なため、小規模農家は購入することができません。小規模農家のために、安価で小型の播種機が開発されることが求められています。

### パキスタン研修員が播種機を試作

播種機導入は手作業による種まきの上述の問題の解消だけではありません。手作業とは比較にならないほど精度よく播種できることにより、発芽・苗立ちがそろい、大幅な収量向上・品質向上がもたらされるという利点もあります。2014 年度農機具研修コースに参加したパキスタンのスルタンさんは、これらの利点に着目し、小規模農家の生産性や収入向上支援に加えて、将来的には野菜の海外輸出の可能性までを視野に入れ、野菜等の多目的人力播種機を試作しました(当研修では、全ての参加研修員が自国のニーズに合った試作機を設計・試作することになっています)。

### パキスタン小規模農家を幸せにするために！



試作した播種機の性能評価試験を行う  
 スルタンさん(JICA 筑波場外圃場)

スルタンさんは試作した播種機の性能評価試験を行い、手作業に比べ、播種コストを 65%軽減することに成功しました。

帰国後は、所属先の農業研究委員会 農業・生命工学研究所で改良のための試験を重ね、試験圃場において作業負荷が小さく、かつ均一に播種できるという結果を出しました。

現在は、①更なる播種機の改良、②播種機製造業者の選定・契約、③モデル農家への播種機の配布と使用の指導、④多くの場所でのデモンストレーションの実施、⑤モデル農家からの意見の播種機へのフィードバック(改良)を行っています。

パキスタンの小規模農家を幸せにするためのスルタンさんの挑戦はまだまだ続きます。

### 【研修コース情報】

|        |   |
|--------|---|
| 研修コース名 | 課題別研修「ニッポンのモノづくりのノウハウを活用した官民連携による小農向け農機具の試作品の開発・普及」                             |
| 問い合わせ先 | JICA 筑波 代表メールアドレス: <a href="mailto:tbiccttp@jica.go.jp">tbiccttp@jica.go.jp</a> |